

平成 30 年度 第 1 回 防衛医科大学校病院医療安全監査委員会議事要旨

1. 日時：平成 30 年 6 月 6 日（水）16：00～17：30
2. 場所：防衛医科大学校病院東棟 11 階カンファレンスルーム
3. 司会：澤田喜代子
4. 外部監査委員（出席者）

委員長 齊藤 祐次	所沢薬剤師会顧問
委員 大舘 千歳	国立障害者リハビリテーションセンター看護部長
島戸 圭輔	二番町法律事務所（弁護士）
奈良 信和	自治体職員
根本 孝一	永仁会入間ハート病院 副院長

5. 出席者

病院長	浅野 友彦
医療安全担当副院長	川名 明彦
医療安全・感染対策部部长	辻本 広紀
医療安全推進室室長	医師（GRM） 高畑 りさ
医療安全推進室副室長	看護師（GRM） 澤田 喜代子
医療安全推進室室員	医師 藤井 博子
	看護師（GRM） 根本 ゆき
	薬剤師（GRM） 奥富 秀典
医薬品安全管理責任者	薬剤部長 小杉 隆祥
医療機器安全管理責任者	材料部副部長 零石 正明

6. 病院長挨拶

7. 医療安全管理担当副院長挨拶

8. 議事

議事進行： 齊藤 祐次 委員長

監査事項

1) 平成 30 年度安全管理体制について

高畑室長がスライドと資料に沿って平成 30 年度安全管理体制について説明した。

2) 平成 29 年度インシデントレポート集計結果報告

高畑室長がスライドと資料に沿って平成 29 年度インシデントレポート集計結果を報告した。レポートの件数や関連別件数は一昨年と大きな差はなかったが、職種別の報告件数において医師からの報告件数の割合が増加していることを報告した。委員より 9 月の報告件数増加の要因についての質問があり、増加の時期が専門研修医の異動に伴うオリエンテーション後に一致するという説明から、啓発活動が報告件数の増加に繋がっていることが考えられるため継続的な啓発活動が推奨された。また、昨年と比べ、レベル 3B 報告の件数はほぼ同程度であるが、内容の変化はないか質問があった。レベル 3B 事案は大半を転倒転落が占めており昨年と同様であることから、転倒転落に対する対策について質問があった。これに対して、きめ細やかな情報収集やその共有が必要で有り、従来のアセスメントや対策では高齢の入院患者の増加に対応することが困難なのではないかと考えていることを報告した。

3) 平成 29 年度の外部監査指摘事項と改善状況の報告

高畑室長が以下の項目について、スライドと資料に沿って説明した。委員より、インフォームドコンセント時の異なる職種の同席に関する基準やマニュアルの不足を指摘され、今後、早急に関係部署との調整を図る旨を報告した。

- (1) 読影レポート判断基準の均質化・マニュアルの作成
- (2) 未読レポートをなくすための対策
- (3) 画像検査依頼目的の明確化
- (4) 重要所見に対する対応
- (5) 事務職員のマンパワーの充実
- (6) 診療情報管理士の導入
- (7) 臨床工学技士のマンパワーの不足
- (8) 病棟の常備配置薬（劇薬）の表示
- (9) 未承認新規医療機器の適否を検討する部門の設置
- (10) 高難度新規医療技術の体制
- (11) 高難度新規医療技術評価委員会の委員に歯科医師を任命
- (12) インフォームドコンセント（IC）時の異なる職種の同席
- (13) 医療安全管理指針に「高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合」を明記